

■西園寺実兼 公卿。関東申次。京極為兼と対立，子公衡の死去で再任すると，為兼を失脚させ，“文保の御和談”に。

さいおんじさねかね

引付衆始・・・1249＝

生。父は太政大臣西園寺公相。母は大外記中原師朝の女。叔母に後嵯峨院中宮(後深草・亀山の生母)大宮院
姑子，後深草院中宮東二条院公子がある。

・・・・・・1255＝ 6歳：叙爵。

北条時頼出家1256＝ 7歳：

・・・・・・1258＝ 9歳：侍従・近衛を経て左中将从ら，

・・・・・・1261＝12歳：従三位(非参議)に叙す。

将军入替・・・1266＝17歳：権中納言に任ず。

・・・・・・1267＝18歳：父公相が死去，

北条時宗執権1269＝20歳：*続いて祖父実氏が死去したため，弱冠にして家督遺跡を継ぎ，関東申次となる。

日蓮佐渡配流1271＝22歳：高麗来牒，

この間，西園寺家では庶流洞院実雄が女姑子(京極院)を亀山院中宮とし勢力を得ていたが，実兼は勢力の
挽回を期し後深草院の皇子熙仁(のちの伏見天皇)立太子に尽力し，

元寇文永の役1274＝25歳：蒙古襲来に際して，公武間折衝の重責を担った後，

元使斬殺・・・1275＝26歳：その実現とともに春宮大夫となった。

・・・・・・1276＝27歳：

元寇弘安の役1281＝32歳：

北条時宗没・1284＝35歳：

霜月騒動・・・1285＝36歳：

・・・・・・1288＝39歳：右大將を兼ね，従一位に昇叙。女鐘子を伏見天皇に入内させ，

久明親王将军1289＝40歳：所生の胤仁親王(のちの後伏見天皇)の立太子をみた。内大臣，

・・・・・・1291＝42歳：太政大臣に任じたが，

・・・・・・1292＝43歳：これを辞す。

平禅門の乱・1293＝44歳：

・・・・・・1294＝45歳：

一山一寧来日1299＝50歳：*牛車宣旨を被り，まもなく出家。すでに伏見天皇の親政下に乳父京極為兼の権勢が増大し，実兼と持明院
統の間には自然疎隔が生じていたが，大覚寺統・亀山院側の働きかけもあって，

後二条天皇・1301＝52歳：女瑛子(のちの昭訓門院)が法皇の宮に入り，提携が生じる。

・・・・・・1303＝54歳：

・・・・・・1312＝63歳：

・・・・・・1315＝66歳：*子の公衡の死去によって再び関東申次となり，ついに京極為兼を失脚させ，

文保御和談・1317＝68歳：伏見上皇の崩御に際し，幕府と話し合い，以後の問題を避けるべく，“文保の御和談”を成して，

後醍醐天皇・1318＝69歳：

後醍醐親政始1321＝72歳：

・・・・・・1322＝73歳：没した。

実兼は琵琶の名手で和歌の道にも秀で，“西園寺実兼詠草”は世に知られている。